

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0893300012		
法人名	有限会社 ハイブリッジ		
事業所名	グループホームカトレア		
所在地	茨城県那珂郡東海村舟石川944 (電話) 029-270-4500		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成21年1月23日

【情報提供票より】 (平成20年9月29日事業所記入)

開設年月日	平成20年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15人、非常勤 3人、常勤換算 7.15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	336 円	昼食 504 円
	夕食	714 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月29日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	10	要介護4	2		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 83.8 歳	最低	60 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東海クリニック、久慈茅根病院、勝田病院 伊藤デンタルクリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は「入居者の人権を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービスに努めます」との独自の理念をもとに実践に努めている。
ホームの敷地内に病院があり、医師の往診や看護師による健康管理を行うとともに、24時間の医療体制を整えている。
職員は利用者の生活歴や趣味を把握するとともに、誕生月に仲の良い者同士で旅行やドライブにでかけたりして楽しみを共有し、家庭的に過ごせるよう柔軟に支援をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初回の受審のため該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や目的を理解しているが、自己評価を全職員で取り組むまでには至っていないので、自己評価の意義や目的を再確認するとともに、全職員で取り組むことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヵ月に1回開催し会議録を作成している。 会議では事業所の状況を説明し理解を得るとともに、地域住民代表や利用者代表等と積極的に意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に第三者の苦情・相談機関を明記し利用開始時に家族等に説明している。 また、玄関に意見箱を設置し、意見等があった場合は会議等で検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、利用者は地域の敬老会や祭りに職員とともに積極的に参加している。 また、事業所の催事に地域の人々を招待するほか、利用者が地域の公民館に出かけ老人会の人々と健康体操を行うなど、地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「入居者の人権を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービスに努めます」との独自の理念をもとに、地域とのつながりを意識して行事に参加するよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を事務所内に掲示し朝礼時に復唱するとともに共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、利用者は敬老会や地域の祭りに職員と共に積極的に参加している。 また、事業所の催事に地域の人々を招待するほか、利用者が地域の公民館に出かけ老人会の人々と健康体操を行うなど、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や自己評価について職員に周知しているが、全職員で自己評価に取り組むまでには至っていない。	○	自己評価の意義や目的を再確認するとともに、全職員で自己評価に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回開催し会議録を作成している。 会議では事業所の状況を説明し理解を得るとともに、地域住民代表や利用者代表等と積極的に意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は村の関係部署を訪問し、情報交換を行うとともに事業所の運営相談や支援要請などを行っている。 また、村職員から催し物や研修会の案内などをもらっている。 介護相談員を受け入れ、運営とサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりを家族等の訪問時や電話で具体的に報告するとともに、毎月「カトレア通信」で伝えている。 金銭管理については出納帳のコピーを毎月の利用請求書とともに家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に第三者の苦情・相談機関を明記し利用開始時に家族等に説明している。 また、玄関に意見箱を設置し、意見等があった場合は会議等で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職時には利用者や家族等に説明や挨拶をするとともに、十分な引き継ぎをしている。 管理者は職員間のコミュニケーションを図るとともに、職員が常に相談できるリーダーを配置するなど離職の防止に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は社内研修や外部研修を受講しているが、研修内容を全職員で共有するまでには至っていない。	○	受講した職員は研修内容を報告書にまとめ、会議等で報告するとともに全職員で共有する体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は隣接する市町村のグループホームと積極的に交流し、研修会や勉強会を通してサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族等の見学を行ったり、利用者の体験利用や宿泊を行い不安が軽減できるよう話し合うとともに、納得したうえで利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活のなかで「物を大切にすることや我慢強さ」を利用者から学び、一緒に散歩しながら地域の昔話を教えてもらったり、利用者と共に家庭菜園作りや昔ながらの料理の味付けを教わるなど共に学び、支えあう関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴を把握し、個人ファイルに心身情報を記録するとともに今までと同じ暮らしができるよう希望を聞き、買い物やドライブなどの支援をしている。 また、日々の関わりのなかで言葉や表情、動作などから思いや意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等の意見を聞くとともに日々の生活のなかで気づいた点を介護計画作成担当者が取りまとめ、カンファレンスを開いて作成している。 また、家族等に確認印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度家族面談やユニット会議で話し合いを行っているが、介護計画の見直しに活かすまでには至っていない。	○	家族との面談やユニット会議で話し合った内容を取りまとめ、利用者の状態に即した見直しが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等の希望に応じて通院支援や医療連携体制を活かし24時間の健康管理をしている。 また、協力医院のマッサージ師から施術を受けるなど柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望にそって主治医を決めている。 また、月1回医師による往診のほか看護師が週2日利用者の健康状態を見守り支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期について利用者や家族等に十分に説明し、同意書をもっている。 事業所は実例をもとに利用者や家族等、医師、職員間で話し合い、対応方針や支援に向けた体制づくりを確立している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の排泄支援や入浴支援の際、誇りやプライバシーを損なわないよう声かけに十分配慮している。 書類等は扉のついた棚に保管するほか、事務所のロッカーに入れるなど取扱に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決っているが、天気の良い日は散歩や買い物、家庭菜園など思い思いのペースで生活ができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の持てる力を把握し、庭で収穫した野菜を献立に取り入れ利用者と共に食材を切ったり、下膳や食器洗いなどの手伝いをしてもらっている。 また、職員は利用者をサポートしながら一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は平均して1日おきになっているが、希望にそって毎日の入浴支援もしている。 入浴拒否の利用者には職員が思いやりの言葉かけで入浴を促している。 また、安心して入浴できるよう福祉用具を準備している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や趣味を把握し、仲良し3人組の誕生月に合わせた旅行計画の実施を支援している。 また、洗濯物たたみや料理作りなど利用者の持てる力に合わせた役割づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は毎日の散歩に心がけ、季節に応じたお花見や地域の祭り事に参加している。 また、ホームの車で買い物やドライブに出かけるなど、利用者の希望にそった外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており玄関や居室には施錠していない。 事務所から2階の出入りが見え、外出を察知した場合は安全面に配慮し利用者につき添うなど、鍵をかけないケアを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を実施しているが、地域の人々の協力や非常用食糧の備蓄がなく災害対策に取り組むまでには至っていない。	○	地域の人々の協力体制や非常用食糧の備蓄など災害対策に向けた体制づくりが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事量や水分摂取量を記録し1日を通して把握している。 また、利用者の身体機能に応じた量や食べやすい調理方法に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂は明るくカーテンで陽光を調節している。 フロアから畳敷きがありテレビや毛布を用意し休憩や昼寝ができるよう配慮している。 また、季節の花や小物を飾ったり音楽を流すなど居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はテーブルや椅子、テレビ、冷蔵庫、仏壇など利用者の使い馴れた品物や大切なものを持ち込み、利用者が落ち着いて過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。